PICK UP

地域ぐるみの防犯

約10年ぶりに100件超

この数字、何を表わしているか分かりますか？

約10年ぶりに増加

ニュースで流れる「子どもが誘拐された」という事件―。

警視庁によると、平成26年中に「13歳未満の子どもが被害に遭った連れ去り事件」の数は、約10年ぶりに１００件を超えたといいます。

このうち、被害の8割は女の子で、16～18時までの下校時間帯の被害が25件と最も多くなっています。

都市部だけではない

「連れ去り」ではありませんが、本町を管轄する伊予警察署管内では、「声掛け事案等」の認知件数が増加。27年9月末現在、昨年の同時期と比べ13件増の56件が確認されています（愛媛県警ホームページより）。25年は1年間で40件だったことから、近年増加傾向にあることがうかがえます。

自分で、家族で、防犯を見直そう

被害に遭わないようにするためには、自分自身や家族が、日ごろから防犯の意識を持ち、行動に移すことが大切です。この機会に、普段の生活を見直してみましょう。

□　周囲に気を配る。スマホや音楽を聞きながらの移動は注意力が低下し危険。

□　明るく、人通りのある道を通る。なるべく１人で行動しないようにする。

□　「おかしいな」と感じたら、距離をとる。危険だと思ったら、大声で周囲に助けを求める。

□　にぎわっている商業施設などでも、駐車場や柱などの死角に注意する。子どもを１人にしない。

□　防犯ベルなど防犯グッズを活用する。

□　万が一、被害に遭った場合は、一人で抱え込まず、周囲や警察に相談し、情報を共有できるようにする。

歩行中・自転車で移動中の
防犯チェックをしてみよう

地域で見守る

個人や家族での防犯だけでなく、大切なことは「地域で見守る」という姿勢です。

これまでも、見守り隊など多数の団体が防犯の活動をしています。その中で、より身近な「大字」単位で防犯パトロール隊を結成し、地域の安全を守る動きが生まれています。

きっかけは身近な事件

「岡田交番もなくなり、子どもが連れ去られそうになる事件があって」と話すのは、平野敬欣さん＝西高柳＝。岡田小学校がある西高柳地区では、地域の安全を地域で守ろうと、平成25年8月、防犯パトロール隊を結成しました。

活動を続ける中、今年7月、岡田駅（昌農内）で女性が不審者に襲われる事件が起こりました。隣接する地区との協力の必要性を感じた西高柳のパトロール隊は、大字での防犯パトロール隊の結成を働きかけます。そうして、7月に上高柳地区で、11月に昌農内地区で、それぞれ防犯パトロール隊が結成されたのです。

黄色い帽子が目印

「帽子なら簡単にできる」

当初、たすきをつけてパトロールしていた西高柳地区ですが、上高柳地区の提案により、3地区が共通の黄色の帽子をかぶりパトロールしています。「この帽子をかぶることで『見せる防犯』をして地域から犯罪を追い出したい」と喜安政光さん＝昌農内＝。各大字の費用で作った黄色の帽子を岡田小・中学校にも渡し、不審者情報を共有するなど、連携して防犯を行っています。

この黄色の帽子をかぶり、「散歩がてら『どこか危険なところはないかな』という形で歩いています」と話すのは、昌農内の末光教彦区長です。各地区15～20人のメンバーが、散歩のときに、畑仕事のときにというように、無理のない形で活動をしています。

1 _黄色の帽子が目印　2 _散歩中、畑仕事中など、できる範囲のパトロールをする

3_同様の事件が起こらないように駅周りをチェック　4_岡田駅周辺を見守るメンバー

防犯パトロールは「見せる・分からせる」という効果があります。このような活動を続けていくことは、心強いことです。

伊予署では、不審者情報をホームページで公開しているほか、教育機関などにその情報を提供しています。防犯パトロール隊から問い合わせなどもあり、できる限りの協力や連携をしていきたいと思っています。

伊予警察署
生活安全課課長
西田 誠 警部

防犯で生まれる絆

「帽子があいさつのきっかけになっています」と話すのは、永久満さん＝上高柳＝です。「帽子という印で、地域が一体になれていると感じます。これが見守りの効果なのかもしれません」。

帽子をかぶるという簡単なことでも、関わる人が多くなるほど見せる防犯としての効果が大きくなり、互いに交流を深めるきっかけにもなります。あなたも大切な人を守るため、「防犯」を始めませんか。